アライグマによる農作物被害
（農業被害アンケートの調査等により）

環境研究部 自然環境グループ

■背景と目的

シカ、イノシシやアライグマ（写真）を含む野生鳥獣の保護管理や防除対策のために農作物への被害強度や鳥獣の出没頻度、防除柵の設置状況等について継続して情報収集し、被害の現状や経年変化を分析しています。

本ポスターで取り上げたアライグマは、農作物被害を引き起こす特定外来生物で、全国44都道府県で生息が確認されています。大阪府でも捕獲頭数は年間2000頭を超えています。

被害作物は、写真にあるトウモロコシ、スイカや、メロン、ブドウ、モモ、イチゴなどですが、さらには庭の金魚やペットの餌まで被害を受けています。

＜写真「知って防ごう　アライグマの被害　アライグマ被害対策の手引き［第３版］」＞

■調査方法

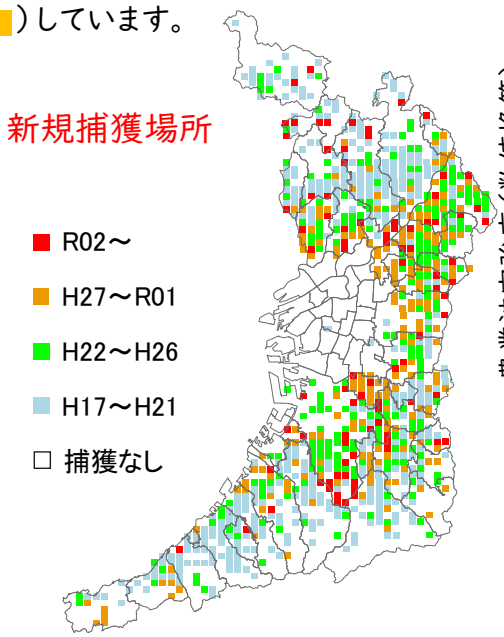
・農業被害アンケート：大阪府各地の農業集落代表者にアンケートを配布し回答を得る（右写真）。

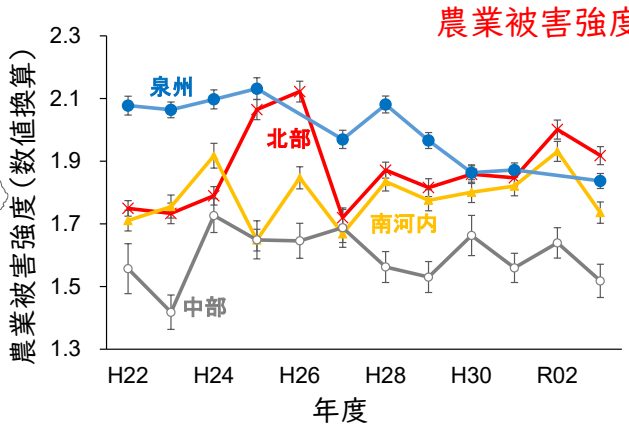
・有害鳥獣捕獲：大阪府からの捕獲データを解析。

■結果

（1）R2年度以降は都市部への分布拡大傾向（■）は、やや鈍化。一方、府内の過去に分布のなかった隙間を埋めるようなかたちで分布拡大は継続（■）しています。

（2）農業被害強度は地域によって異なっていました。中部地域は図1においてH22-26に新規捕獲場所が広がっていますが被害強度についてもそのころに増加しています。





*平均値の推移、縦軸（被害強度）は、被害なし：0、ほとんどない：1、軽微：2、大きい：3、深刻：4、にそれぞれ数値換算（右図参考）

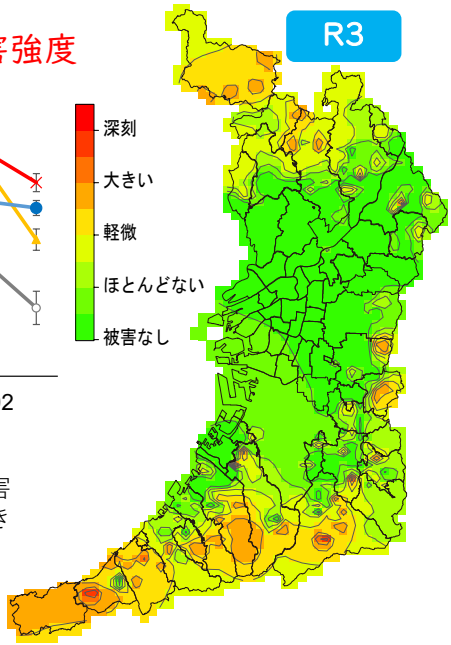


図1　メッシュ単位での新規捕獲場所の変化

図2　農業被害強度の地域毎の推移およびR3年度の被害強度の空間補間図

■今後の方向性

継続的な調査から生息状況や被害状況の経年変化を明らかにするとともに、ワナ捕獲時の情報が充実している市町村を中心に、生息密度と被害強度の関係解析をしていきます。

地方独立行政法人 大阪府立 環境農林水産総合研究所
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture